

アルパック ニュースレター

迎 春

平成 4 年元旦



アルパック創設25周年記念パーティー風景

アルパック ニュースレター もくじ

「新年号」

- あけましておめでとうございます…………… 2
- 欧州リサーチパーク視察についての感想…………… 5
- 加茂町、独自の発展形態を求めて…………… 7
- 府営住宅西天王町団地…………… 9
- 精華町北稻八間区のむらづくりに農林水産大臣賞…………… 9
- アルパック・ウォーターフロント・フォーラムの報告……………10
- うまいもの通信⑨……………10
- 新刊旧刊書評紹介……………11
- まちかど……………12

NO.51

1992年1月1日

あけまして おめでとう ございます 今年もよろしく お願い致します

GROWING 90^s にむけて

代表取締役会長 三輪 泰司

昨年はアルパック創設25周年を記念しての催しをさせて頂きましたが万事不行き届きで失礼致しましたこと、ご寛容のほどお願い申し上げます。おかげさまで、次世代を大きく育てて頂きました。感謝致します。

アルパック第2世代へ

25周年を節目としまして、外へむけては一連のアルパック・セミナー、ミニ・シンポジウムを行い、内では中堅幹部研修会での分野別討論をベースに全事務所・計画部で業務の方法や技術開発などのまとめ、OB現役座談会などをし、記念誌にしてお配りしようと11月1日の園遊会に間に合わせました。内輪の自己満足に属していることも承知していますが、これらの討論を通じて、アルパック第2世代が大きく成長しました。

専門家としての強さとともに、社会的常識をしっかりと身につけていることが大事だと思います。アルパックの社員の社会的活動は、ものすごく拡がり、そこでもますます責任ある役割を受け持つようになっていきます。

GROWING 90^s

シンク・グローバリー、アクト・ローカリーとやってきました。昨年末、欧州で外交折衝をしてきましたが、天下大乱の時代に世界の平和への努力が大事だと痛感しています。

国際性とは、グローバリーに考えると、一切の偏見を持たないことでしょう。何にでも興味を持つことから始まって、人間の発達の原因でもあると思います。

グレーター・アルパックへAII、都住研を創って3年、連携がよいよ軌道に乗ってきました。GROWING 90^sへ頑張ります。

よろしくご指導のほどお願い申し上げます。

研修・情熱・感性・力量

代表取締役社長 金井 萬造

新年おめでとうございます。本年もよろしく申し上げます。

昨年は、アルパック創立25周年記念パーティーへの皆様の絶大な御支援に、所員一同と共に心から感謝申し上げます。

昨年一年をふりかえって、京都事務所の拡充、所内会議の定例化、中堅・若手別の研修、各種フォーラムの開催・協力、各種海外調査団の派遣、学会活動への協力、ニューズレター50号など、若さと情熱で、「外へ」を合い言葉に欲ばった取組みを進めてまいりました。改めて御指導・御支援にお礼申し上げます。

時代の変化のスピードや地域のニーズに対応していくためには、情熱と感性を豊かにすることがキーポイントであると痛感しており、新年もこの延長線上で、教育研修元年として、地域と皆様方に少しでも反応できるように努力します。

本年は、本社に企画推進部を設立し、本格的に展開させたいと考えています。各種の経営の施策を総合的に進め、経営者全員に活動してもらい、グレーターアルパック施策のためにどうしても必要となった次第です。教育研修から、情熱や感性が高められるならば、必ずや力量の向上も期待できるものとチャレンジの精神で取り組みます。情報発信に向けた各種の企画も考えておりますので、皆様方の御参加もお願いします。

積極的営業がますます重要性を増していますが、委託者や皆様方、地域社会の発展・振興への寄与が基本と考え、グレーターアルパックの共同事業、業界や学会での活動も重視して、ネットワークをさらに強めてまいりたいと念願しています。よろしく申し上げます。

10年目を迎えるアルパック名古屋

名古屋事務所長 尾関 利勝

あけましておめでとうございます。今年
はアルパック名古屋の開設10周年を迎えます。
これも一重に皆様方のご指導、ご声援あつて
のことと感謝申し上げる次第です。

スタッフも当初の3名から昨年で12名にな
り、地域の要請にお応えするために近い将来
20~30名をめざしています。ご承知のとおり
計画系コンサルタントやシンクタンクそのも
のが不足する中で、自らが自らをインキュベ
ートすることを使命として努力する所存です。

開設10年を迎え、本来の計画業務遂行の努
力とともに、自ら社会的に意識ある存在とし
ての活動にこれまで以上の展開が必要と考
えております。ここ当分はチャレンジする人間
ネットワーク+まちづくり情報ミュージアム
を目標に、その具体化の戦略と努力を積み重
ねていく所存です。引き続き皆様方のご支
援をよろしくお願い申し上げます。

25周年をバネに新たな飛躍を

京都事務所長 山口 繁雄

昨年アルパックは、創立25周年を迎え、皆
様に温かい御支援と励ましを頂きました。こ
の25年の歴史は、京都事務所の歴史でもあり、
ひとしお感慨深いものがありました。

また、昨年は狭小化したオフィス空間の環
境を改善するため、同じビル内の6階に拡張
移転し、所員1人当たりのスペースを拡大し
ました。アルパックらしさがなくなってきた
のではないかという意見を一部の方から頂戴
しましたが、狭小で雑然とした作業スペース
からは良い知恵は浮かばないという理念で実
施致しました。

「シンク・グローバリー、アクト・ローカ
リー」が当面の私共のスローガンですが、こ
の「シンク」をどこまで追求できるのか、そ
して「アクト」をどこまで実行できるのか、
新しくなった活動拠点でじっくり考えていき
たいと思っています。

所員一同、本年も頑張ります。温かい叱咤
激励をお願い致します。

安定した40人体制の確立をめざして

大阪事務所長 杉原 五郎

大阪事務所は、昨年、全社の25周年記念事
業とあわせて、日米沿岸域セミナー（6月）、
プランナー論ミニシンポ（同）、サイエンス
シティーフォーラム（11月）などさまざまな
取り組みをおこないました。暮れには、次へ
の新たな飛躍をめざして、『大阪事務所の中
期展望』を策定するとともに、幾つかのグル
ープごとに“事務所の将来展望と個人として
の生きがい”について討議する場を持ちまし
た。

今春4月には、新進気鋭の新入所員6名を
加えて、大阪事務所は38名の規模となります。
安定した40人体制を確立するため、仕事の確
保、教育研修の充実、事務所運営システムの
整備・強化などに力をいれていきたいと考
えています。また、大阪都市圏問題の解明と改
善提案にもチャレンジし、独自の情報発信活
動を展開する年にしたいと思ひます。

ご指導ご支援をよろしくお願い致します。



平成4年もよろしく申し上げます

東京事務所長 斎藤 侑男

アルパックでは、ここ数年沿岸域セミナーに取り組んできていますが、昨年は東京湾を初めて対象に含めることになって、東京事務所としても事務局を務めさせて頂きました。

首都圏で地域計画や再開発事業に関わらせて頂いている東京事務所ですが、地域の行く末を思い描くときに、関西圏ではどうであったろうかと、重ね合わせて考えることがたびたびです。

私共コンサルタントは、特定の地域を対象に調査をする場合が多いのですが、その経験が重なれば重なるほど、明確なその地域の計画を描けるようになるように感じています。

スタッフも序々に増えてきた東京事務所です。関西を拠点に仕事をさせて頂いてきたアルパックの蓄積と、首都圏での実務の経験とを交流させていくことのできる立地を生かして、今年もまた一歩、新たな足跡を残せるように努力を重ねたいと存じます。

拠点開発からネットワーク形成へ

九州地域計画研究所長 糸乗 貞喜

タイトルに、1991年の(株)九州地域計画研究所の地域づくりの取り組みのコンセプトをあげてみました。新しい1992年というより、1990年代のわれわれのコンセプトとしたいと思っています。

九州というところは、福岡市と北九州市が目立っていますが“九州”というように特色のある九国から成立っています。したがって九州北部だけ見ても2大都市以外に久留米・佐賀・長崎・熊本など魅力的な都市が並んでいます。

もちろんそれ以外でも「ピリリッと辛い」特色を持った宗像・太宰府・飯塚・有田・唐津…などなど、これらが土地柄を生かしながら、ネットワークをくんだら、どんなに魅力のあふれる九州ができるか楽しみです。たくさん仕事をさせて頂いている中のひとつとして「九州北部学研都市づくり」のお手伝いがありますが、これを進めるために「ねっとわーく通信」を出しています。興味をお持ちの方には、お送りします。

今年も御支援のほどお願いいたします。

(株)アルパックインターナショナルより

代表 霜田 稔

あけましておめでとうございます。

ＡＩＩも、創立以来皆様方の応援をいただきながら、漸く2年が経過し、なんとか経営の基礎を固めつつあります。今年は少しメンバーを増やし、起動力を発揮したいと考えています。関西学研や広島西部丘陵都市のアカデミアプランや私の住む長岡京市神足駅東口の再整備計画、さらにはベイエリアでの次世代産業創造の仕掛けづくりといった調査と推進を一体とした業務に全力を投入していきたいと考えています。今の時代は、単なるマスタープランづくりから、事業全体のマネジメントに向けた取組みなしには、都市開発事業も展開が不可能な状況ではないかと思えます。学研都市もベイエリアもいよいよ国際プロジェクトとして中身が問われる状況になってきました。ますます多彩な人材を結集した創造的な事業を推進する機会としていきたいと考えています。

今年も宜しくお引き立てのほどお願い申し上げます。

(株)都市居住文化研究所より

代表取締役 道家駿太郎

あけましておめでとうございます。

バブルがはじけて、不況感も一段と強まりました。高度経済成長から安定成長へと転機したオイルショック後の不況時と同じ様に、社会の価値観の変換点に差し掛かっている様にも思われます。

昨年11月末に行われた2つの国際会議のお手伝いをしました。環境文化会議では、アスペンを中心とするアメリカを代表する建築家

や知識人と、またアジア太平洋工芸会議では、ニュージーランドの世界的ヨットデザイナー、ロン・ホーランド氏と、京の町家の中で酒をくみ交わしながら語りあい、京都の住まいの文化的環境に共感を抱いていただけました。使い捨てでない住まいや、永く使える工芸品は、現代社会での生産のあり方に示唆を与えるものと確信をもつことが出来ました。

都市居住文化研究所も時代の転換期に、精一杯、働きたいと思えます。

本年もどうぞよろしく願い致します。

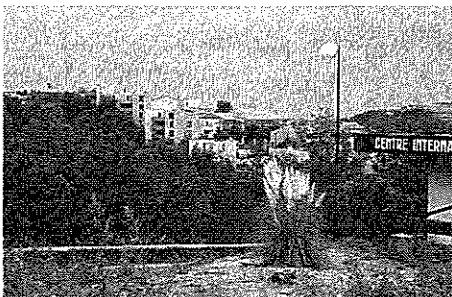
欧州リサーチパーク視察についての感想

西田 昌治

欧州のリサーチパーク（イギリス、ドイツ、ベルギー、フランス）を駆け足で視察した中で自分なりに感じたことをまとめてみました。
土地利用

ソフィア・アンティ・ポリスに代表されるように造成計画の面では、現況の地形を生かした形での開発が多く（日本ではこの様な地形の土地がほとんど残っていない）ヨーロッパの恵まれた地形条件がうらやましく思いました。

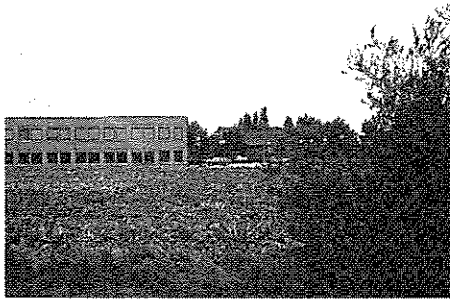
特にルーバン・ラ・ヌーブ（ベルギー）での土地利用計画の面で面白い試みがされていたのでその一部を紹介します。



自然地形を生かした造成計画

特徴的な土地利用計画としては、大学が企業を誘致し建築許可、デザインコントロール等の全ての権限を持っています。また企業誘致については、大学が企業を選択し大学と企業の間で大学の所有地（900ha:大学・住宅等用地350ha、サイエンスパーク160ha、緑地・リザーブ用地390ha）を長期賃貸（99年契約等）するという方式をとっています。その中で未利用地である企業用地の空地をただサラ地として残しておくのではなく企業が立地するまでの間、農家にレンタルする形で農地として利用している点が面白い試みだと思いました。農地として土地利用されているため、地肌の見えている殺風景な景観でなく緑の景観としての機能も兼ね備えています。

なぜ企業が賃貸契約を大学と結ぶかということ、企業が土地を買収することも出来ますが賃貸契約を結んだ方が税制面でかなり優遇されるため土地をわざわざ買収するより賃貸の方が割安になるという構図になっています。



農地として利用されている区画

方が割安になるという構図になっています。また都市アメニティを向上させるための工夫として企業の用地内には、総事業費の2%を何らかの形で芸術作品に投資することが義務付けられています。

外構デザイン

ヨーロッパの芝生は、気候・風土の関係で年中緑色であることから、その特性を活かしグランドカバーとして多くの地区で利用されていました。また、造形的地形と芝生が景観面で良くマッチしていたと思います。しかし今回11ヵ所のリサーチパークを視察しランドスケープデザインの面から感じたことは、どのサイエンスパークも画一的なデザインであったように思います。(地形的条件がほぼ同じであることから同じ様なデザインになるのかもしれない。)

ループ・ラ・ヌーブでの環境形成のための指針として、芸術作品(事業費の2%)の設置義務や緑地率の規定、駐車場設置基準等きめ細かな指導がなされており、日本においても見習うべき点が多かったように思います。指導されている主な内容をまとめると以下のようになります。

- ・企業研究所の拡張、機会設置については、監督官庁の許可が必要である。
- ・一時的、暫定的な建築物は認められない。
- ・駐車場を設置する場合は、周辺道路から見えないように配慮する。
- ・建築確認(全体配置計画、建築形状等)を



企業用地内の芸術作品

大学から承認されないと建設できない。

- ・企業用地での建ぺい率40%、オープンスペース率20%である。

リサーチパーク

欧州の各リサーチパークには大学、国家的プロジェクトの導入等、開発を行う為の起爆的要素(地域資源)がそろっており、またそれらを活性化することにより地域振興にもつながると言う恵まれた地域であるように感じました。

機能面では、研究所を核とし大学、文化施設、研修施設、住宅といった複合的開発(複合的施設立地)と企業間、大学と企業、リサーチパーク間の横の連携システム等が確立している点は、今後日本でサイエンスパーク等を考える場合参考にすべき点であると感じました。(運営面でのソフト支援体制が確立しているように思いました。)

サイエンスパークで成功の鍵をにぎるものはやはり大学であると感じました。大学の役割は、いかに企業と連携し基礎研究と応用研究とをうまくつなげ商品化していくかであると感じました。

ブレーメンテクノポリス(ドイツ)で勉強になったことは、「外でも内でも思い切ってやってみて勝つ」というコンセプトワードはそのとおりだと思いました。日本でも地域活性化等を行う場合は、とりあえず行動を起こしてみるということの重要性を再認識しました。(京都事務所 にしだ まさはる)

泰さんのあんな京都こんな京都⑥ 加茂町、独自の発展形態を求めて

山田 泰造

京都南部の笠置町に向かうJR関西線の車窓から突然山間の丘陵に何百戸という住宅が朝日にキラキラと輝いているのが、目に飛び込み、新鮮で強烈な感動を覚えました。ここが加茂町（人口16,950人、面積3,693ha）に誕生した住宅団地であろうと、町役場に行き、団地の経過等をお聞きする事にしました。

南加茂台団地の誕生

町の中央部にある南加茂台団地（以下団地）は面積82.9ha、人口8,400人で、町人口のちょうど1/2を占め、偶然とはいえ新旧町民数が相半ばしています。

まず団地誕生の経過を振り返ってみますと、京都府の木津川下流左岸の地域は京阪奈丘陵と呼ばれ、S40年代激しい土地流動の対象となっていました。加茂町ではS44・10大阪労働者住宅生活共同組合（以下労住協）が用地取得を開始し、12月にマスタープランを発表、S46・9町に計画概要を説明しました。一方日本住宅公団はS40平城ニュータウン計画を発表、宅地造成を開始、引続き木津加茂ニュータウン計画（1,300ha、13～15万人）を発表、S47・4木津町次いで加茂町を訪れ、加茂町域内 約300haを対象とする開発構想を示し、5月には地元関係者を集め説明会を開きました。地元からは労住協開発との関連、河川・汚水処理等の質問が出され、一年後返答する事で散会しました。「私達にとって想像もつかない大構想」（町広報）と受けとめた町は、結論を住民の意見によって決定することにしました。47年はまだ京阪奈丘陵での文化学術研究都市構想は姿も見せておらず、この時点で町にとっては黒船の出現とでもいうべき事

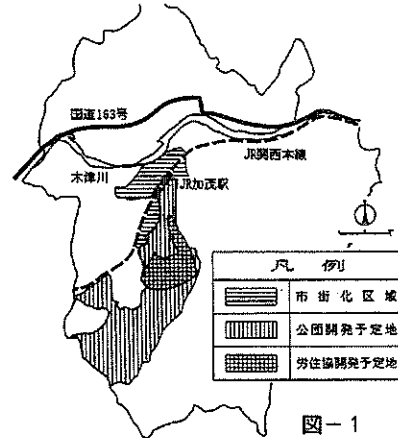


図-1 (町資料)

態を向かえたのです。関係10地区の町会議員、農業委員、区長を始め地権者や思惑のある人々はもとより全町民を巻き込んで、田畑の開発が多い公団案か、森林に覆われる丘陵地の労住協案かいずれを選ぶべきか熱い話し合いが繰り返され（図1）、遂にS48・4町議会は全員協議会を開き、全会一致で「この構想は自然と農業を破壊し、歴史的風土を損なう」との理由で公団の申し入れの白紙撤回を要望しました。

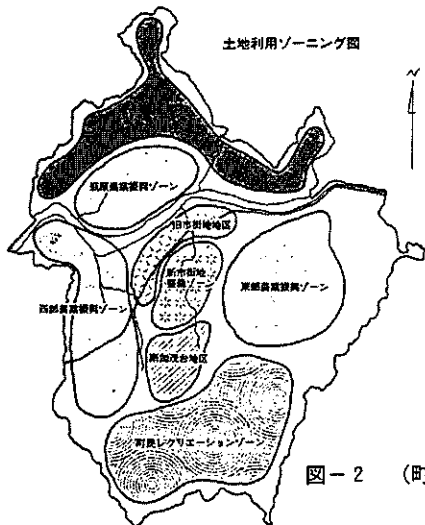
S48・4労住協は直ちに地元への説明会、造成に関する事前協議を精力的に行い、ようやくS54・5起工式を挙行、S56・12から逐次入居を開始しました。

ちなみにS26加茂町発足時の人口は9,818人でS50には8,953人へと激減しています。そこでS46・12に行われたいわゆる線引きを契機に、町は人口2万人のまちづくりを表明し今日に至るまでその方針を堅持してきました。町は自然・歴史・農業を守る住民の意向を尊重し、かつ町勢振興のため町の行政能力に見合った開発、即ち大小の開発を抑制し、中規模開発の道を選んだといえましょう。

団地住民の生活意識から

S56・12の入居開始からH3・10・25の間2,034世帯の転入があり、大阪1,019(50%)、奈良661(33%)、京都203(10%)と三府県で93%を占め、勤務先は殆どが大阪です。当団地を選んだ理由…異口同音に価格が適当であったとしており、その他土地付一戸建住宅(50~60坪)や環境の良さ、大阪迄1時間という交通条件等をあげています。転居は最近3年間毎年60~70世帯あり、いずれも転勤が理由です。団地住民から多くの問題意識を聞きましたが、その中から環境について取上げます。

環境…最近町民全員を対象としたアンケート調査で、故郷に誇りや愛着を感じる理由の項に、自然と多くの文化財をあげた人が75%を占め、特に団地住民の意向は強かった(町)とのことです。田畑が前面に、後背には山並が眺められ、近くの木津川の悠々たる河の流れによりホッとした安堵感を覚える、年一回の河原での花火大会や家族全員でのバーベキューが楽しみ。前住地ではあっという間に周囲の田畑が住宅に変わり淋しい思いをした。休日の散策や名所史跡めぐりの喜び等団地住民の自然が長く現状で保たれる事に強い願望を持っているのを知る事ができます。



町独自の発展形態を求めて

町は学研都市の着実な進歩と団地入居完了をふまえH3・6に第二次基本構想を発表しました。2000年目標23,000人、加茂駅周辺の整備を新市街地(23ha, 2,200人)の造成により商業業務機能の集積を骨子とし、各地区の均衡ある発展を期しています。加茂駅を中心とする旧町と新市街地と団地とが一体化すれば、素晴らしい田園都市が生まれるでしょう(図2参照)。

参考に近隣町の人口計画をあげます。

40年代に当時の町民は自然と歴史的風土と環境を守る姿勢を示し、線引きや農振地域・農用地区の指定(S48・50)を遵守し、大小規模の乱開発を身をもって防止し、中規模開発の道を選択し、また町も着実に行政能力を高め、21世紀を向かえようとしています。今後外部からの都市化への圧力と、内部の住民からの環境を守る声は急速に高まることが予想されますが、町はこの時点で新構想を発表し、自然環境と歴史的風土を保全しながら新しい自律性のあるまちづくりの目標を明示したことは賢明であったと考えます。「文化が薫る暮らしよいまち」を町の将来目標として、独自の道を進まれることに心から敬意を表する次第です。(京都事務所 やまだ たいぞう)

周辺町名	H. 2 (1990)	H. 12 (2000)	H. 12 / H. 2
加茂	16,950	23,000	1.36
山城	9,320	12,000	1.29
笠置	2,312	2,450	1.06
学研都市内	田辺	75,000 80,000	1.53 1.64
	精華	17,519	2.00
	木津	23,263	2.60

京都市都市景観賞に入選した 府営住宅「西天王町団地」

前田 恭宏

今回、第2回京都市都市景観賞に入選した府営住宅西天王町団地は、昭和60年立替基本計画、昭和62年実施設計、昭和63年建設工事と進められ、私は基本計画、実施設計を担当させていただきました。

敷地は美術館、動物園、平安神宮などが集まる岡崎の文化ゾーンに隣接しており、設計にあたっては、周囲の景観との調和、特に南側の疎水を介しての外観に配慮しました。屋根はむくりをもたせた勾配屋根・和瓦葺として、西側の家並みとの連続性をもたせています。バルコニー外面は、プラントボックス置付き窓台、横線強調の窓手すり、明るさを配慮したガラス製手すり、手すり笠木内に納まる様に高さを考慮した物干金物等の要素で外観を構成しました。

また当地は平安時代後期の「六勝寺」跡と推定されており、埋蔵文化財調査により、尊勝寺御堂跡の柱石が発掘され、保存の方針となり、設計変更対応により建物床下に現状のまま保存されています。

竣工後4年を経過した今でも住民の方々には洗濯物を干す位置、窓台の花、出窓部の置物等の協力をいただき、キレイな形を保っており、今後も地元の方に愛される建物であって欲しいと思います。



(大阪事務所 まえだ やすひろ)

精華町北稲八間区のむらづくりに 農林水産大臣賞

杉原 五郎

このたび、京都府精華町北稲八間区が『豊かなむらづくり全国表彰事業』で農林水産大臣賞を受賞されました。精華町のまちづくりやむらづくりのお手伝いをこれまで18年間させていただいてきた者として、ほんとうによるこぼしいことと思っています。

北稲八間区では、昭和50年代後半になってむらづくりに対する機運が盛り上がり、昭和61年に「むらづくり推進委員会」が結成されました。“むらづくりはみんなの手で そして一人はみんなのために みんなは 一人のために”をスローガンに掲げて、さまざまな取り組みが行われてきました。むらづくりニュースの発行、講演会の企画、先進地の視察、水稻減農薬栽培、健康食品ケールの無農薬栽培、葬祭の簡素化、メモリアル森林公園の整備、美化・緑化運動、区民運動会、秋祭りのみこし巡行、こども相撲大会など実に多彩な取り組みが全区民の参加でおこなわれているのです。

このような手づくりのむらづくりが活発に展開できる背景には、すぐれた多くのリーダーの存在、一人ひとりの力を発揮しうる熟達した組織運営、地域としてのまとまりのよさ、町からの支援体制(まちづくり条例等)などといった要因があるように思います。私たちまちづくりのコンサルタントとしては、北稲八間のようなすぐれた地域づくりの事例を発掘し、その成功の要因を深く分析し、そこから他の地域にも応用できるような教訓を引き出し、それを幾つかの地域に普及していくことが大きな役割ではないかと考えています。

(大阪事務所 すぎはら ごろう)

アルパック・ウォーターフロント・フォーラムの報告

森脇 宏

さる10月21日、“ウォーターフロント開発と事業化手法”をテーマに、アルパック主催のフォーラムを開催しました。全国各地でウォーターフロント開発が数多く検討され、アルパックも、幾つかの計画に携わらせていただいておりますが、どう事業化を図るのが大きな課題となっています。そこで、上記のテーマで、フォーラムを開催しましたところ、ウォーターフロント開発に係わっておられる研究者、自治体関係者、コンサルタント、建設会社、土地所有企業等、合計70名の方々に参加していただきました。

当日は、黒田勝彦先生（熊本大学教授）に司会をお願いし、午前中は、H. シェパード氏（ロンドン・ドックランド開発公社 都市

計画部長）から、「ロンドン・ドックランド再開発計画と事業化手法」の報告を、午後は、佐藤昌之氏（横浜みなとみらい21株式会社副社長）から、「MM21のプロジェクトと事業化手法」の報告をいただきました。日英の代表的プロジェクトの開発計画と事業化の工夫等についてお話をお伺いし、質疑応答では、活発なディスカッションができました。

なお、当日の資料が若干残っておりますので、ご関心をお持ちの方は、ご連絡いただければ郵送いたします。



（大阪事務所 もりわき ひろし）

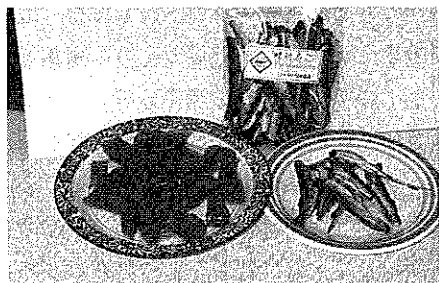
うまいもの通信⑨

九州のおきゅうととアゴ

山辺 真一

「おきゅうと」

エゴノリ「沖のうど」を天日に干して、煮越して固めたもので、博多では、好みによって鯉節としょうゆ、あるいは胡麻や酢を加えて食べる。かつては、博多の朝食にはつきものだったそうだが、今は旅館の朝食か、居酒屋



屋で博多の味としての方が有名である。

喉をとおるとき、冷たくてツルンとした感覚がまた格別である。スーパーで売っており、一度自分流の味付けで試されてはいかがか。

「アゴ（とびうお）」

九州の魚は生魚でも、干し魚でもうまいが、中でもこのアゴは、料理のダシとしても有名であり、しかもゴマサバ、ゴマアジと並んで刺身で食べる「ゴマとびうお」もうまい。

そして、このとびうおを干す時に少し甘味のある味付けをした「アゴ」が、長崎駅や博多駅など（長崎本線沿線が多い）の売店にあり、車中でのビールの共として、道中の時間つぶしにもってこいである。ただし、食べ過ぎると「あご」がだるくなるのでご注意ください。

（㈱九州地域計画研究所 やまべ しんいち）

新刊旧刊書評紹介

建設省監修 ケイブン出版

「やさしいまちの空間学」

紹介 藤井 明美

生活者感覚の鋭い女性が、柔軟な発想でまちづくりについて語り合うという趣旨で開かれた、「まちづくりフォーラム」をとりまとめた本です。

第1章は今後のまちづくりに対する基本的な考えと、これを実現させるための12の提案がされています。第2章ではまちづくりに携わる女性の専門家の立場からの新しいまちづくりに対する提案がされています。

絵や写真が多く、参考となる事例もあげられており具体的でわかりやすく、自分の住んでいるまちと比較しながら読むことができました。このなかで私にも関心ある提案がいくつかありましたので紹介します。

○子供の目でまちをみる

子供の視野は大人に比べ低くかつ狭いので、信号機は見上げなければならないとか、足元の景観が気になるなどあります。そして子供が描いた遊び場の絵を見て感じたのは、遊具はあるがあまり大きくなく、池や木が大きく描かれている。大人よりも自然を大切に思っているのではないのでしょうか。

○女性が動きやすく働きやすいまちにする

共働きをして子供を育てている女性にとっては、保育所、買い物をする場所が近くにあり交通の乗り換えがしやすいといった職住近接のコンパクトなまちを求めていると思います。

○やわらかな都市空間をつくる

都市空間をもっとやさしくやすらげるものにするためには、土、草、水、木といった自

然素材を都市の中にうまくもちこむなどが考えられます。華やかさにはとほしいが、郷土の野の草花等でもいいと思います。

全体をとお

して感じたことは、「ゆとり」「やすらぎ」「うるおい」をキーワードとして「豊かさを実感できる」誰もが住みよいまちづくりを求めているということです。

そして、自分のまちをもっとよく知り、発見し直し、個性あるまちづくりをすることが求められています。

私のまちでも、住みよいまちになるように駅周辺の道に花が植えられていたり、公園の清掃を家族全員参加でしたり、大型ごみを減らすために交換会が定期的に開かれたりしています。また、ため池の周辺に子供から老人までが楽しめる空間づくりが進められています。

私も今の所にずっと住み続けるために、まちづくりのことをもう少し真剣に考えなければとつくづく思いました。

(大阪事務所 ふじい あけみ)



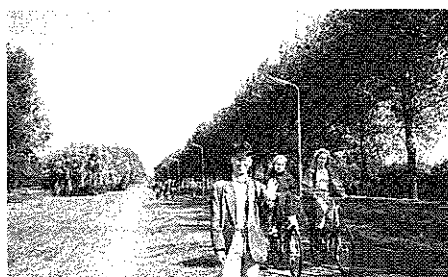
ま ち か ど

オランダの自転車道

真野 峰行/竹野 潔

アムステルダムから鉄道で約30分の郊外（ザンスタグ）に、風車小屋が保存されている地区がある。その近くに写真のように車道と自転車道と歩道（歩道がいちばん狭い）が完全に分かれているところがあった。私が自転車道に立っていると、「のけのけ」といった感じの大きな言葉で警告された。実は同じようなことを、スウェーデンのストックホルムでも目撃しており、オランダの自転車道は、日本の自動車道と同じような感覚で考えられているのであろうか。このことは、アムステルダム都心部でも同様のようで、自転車のスピードが速く、まるで自動車とケンカしながら道路を共用しているようだった。ただし、自転車利用に関する教育が進んでいるのか、ルールはわりと守られているようで、例えば、右左折時に必ず手で合図をすることや、駅前に放置自転車が多く見られないことには、感心させられた。

オランダ人が、ふだんどれくらいの距離を



自転車で走るのかわからないが、オランダは、ご存知の通り海を干拓し国土を形成してきたため、どこまでも平らなところが続いており、自転車で走るにはほどよい。それに、通訳の話によると、オランダ人の身長は世界一高いそうである。おそらく、足の長さも身長に比例して長いと思われ、これもオランダの自転車利用が進んでいるひとつの要因ではないだろうか。

（大阪事務所 まの みねゆき

たけの きよし）

アルパック (株)地域計画・建築研究所

ARCHITECTS, REGIONAL PLANNERS & ASSOCIATES, KYOTO

本 社	〒600 京都市下京区四條通り高倉西入ル立売西町82	TEL (075) 221-5132(代)
京 都 事 務 所	(大和銀行京都ビル6階)	FAX (075) 256-1764
大 阪 事 務 所	〒540 大阪市中央区城見1-4-70	TEL (06) 942-5732(代)
	(住友生命OBPプラザビル15階)	FAX (06) 941-7478
名 古 屋 事 務 所	〒460 名古屋市中区丸の内3丁目18番30号	TEL (052) 962-1224(代)
	(ツボウチビル2階)	FAX (052) 962-1225
東 京 事 務 所	〒160 東京都新宿区新宿2-5-16	TEL (03) 3226-9130(代)
	(震ビル401号)	FAX (03) 3226-9560
㈱九州地域計画 研 究 所	〒810 福岡市中央区天神1丁目15番1号	TEL (092) 731-7671(代)
	(日之出ビル6階)	FAX (092) 731-7673
㈱アルパックイン ターナショナル	〒540 大阪市中央区谷町1丁目5番7号	TEL (06) 943-7016
	(ストークビル天満橋10階)	FAX (06) 943-7026
㈱都市居住文化 研 究 所	〒604 京都市中京区東洞院通六角上ル 三文字町225	TEL (075) 252-2231
	(朝陽ビル4階)	FAX (075) 252-4417